

将来ビジョン達成に向けた長期目標・中期計画<<組織強化>>

ビジョン	マイクロレベルの実践 主体性の尊重			メゾレベルの実践 多様性の尊重			マクロレベルの実践 包摂性の追求		
	①必要な人すべてにソーシャルワークを届ける	②医療の主体的な選択を支援する	③その人が望む暮らしの実現に向けて関わる	④個性が尊重され多様性を認め合えるコミュニティにする	⑤適切で良質な精神医療を身近な地域で提供できるようにする	⑥誰もが希望する形で社会参加できる地域をつくる	⑦メンタルヘルスリテラシーを高め、ストレスに向き合うことのできる社会をつくる	⑧精神疾患や精神障害へのスティグマを解消する	⑨人権が尊重される共生社会をともに実現する
	協会としての組織課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援へのアクセシビリティ向上への寄与</li> <li>理事間の連携機能の強化</li> <li>理事の役割の明確化(組織全体を俯瞰したマネジメント機能)</li> <li>MHSW協会の独自性の発揮</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療領域の他団体(日精協、日精看、コメディカル等を中心とした他団体)との連携・協働体制</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域コミュニティとのつながり(地域社会の現状把握機能)</li> <li>都道府県協会との連携機能の強化</li> <li>構成員からの情報収集機能/発信機能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>メディアリテラシーの向上</li> <li>組織が内包する多様性を活かす</li> <li>精神保健福祉士の価値観の可視化、理念に基づいた、構成員が共有できる行動指針の明示</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域課題の意見集約の仕組み</li> <li>代議員の役割の明確化</li> <li>誰もが安心して受療できる精神医療の実現のために課題整理、具体的ゴールの共有・浸透</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ピア、家族等の当事者との協働の促進</li> <li>互いの立場を超えて、持続可能なつながり・活動の場の構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各領域で活躍する多様な構成員の組織化</li> <li>メンタルヘルスリテラシー向上に向けた事業展開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>PSW時代からのミッションの継承</li> <li>精神保健福祉法の解体</li> <li>日弁連との協働</li> </ul>
レベルのまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>クライアントを取り囲む社会情勢を捉える情報収集力</li> <li>組織を構成する人員ひとりひとりがプレイヤーとして主体性、自律性を発揮できる土壌</li> <li>事務局機能・人身体制の強化</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>支部・ブロック等の地域特性を認め合い、組織としての強い結束力を活かしながら社会に働きかけができる</li> <li>全世代、多文化領域にわたりメンタルヘルス課題に取り組める精神保健福祉士の強みの焦点化、発展</li> <li>組織理念に基づいた内外の結びつきの強化</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>メンタルヘルスリテラシー推進の担い手としての組織活動</li> <li>精神科医療の改善のために組織力が発揮できる</li> <li>共生社会実現のために多領域にわたる他団体との連携・協働</li> </ul>		
長期目標	<b>【10年後に達成する】</b>								
	<ul style="list-style-type: none"> <li>精神保健福祉士の社会的認知の向上</li> <li>精神医療福祉関連団体との具体的な連携・協働の実現</li> <li>本協会都道府県精神保健福祉士協会の相互組織率向上</li> <li>認定精神保健福祉士のインセンティブの実現</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>多様なメディアの活用の実現</li> <li>シンクタンクとなる調査研究部門の創設</li> <li>都道府県協会(支部)による、地域の実情に応じた精神医療の改善、発展</li> <li>ブロック単位での多様な活動の展開</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>精神保健医療福祉関連の全国組織・団体等との協働関係を深める</li> <li>ソーシャルワーカー関係団体との連携を強化し、ソーシャルワークのグローバル定義の実現のために必要な人材育成、社会体制の構築を目指す</li> <li>全国各地の実情の集約・情報の活用</li> <li>構成員の意見が活発に活用される</li> </ul>		
中期計画	<b>【5年以内に取り組み成果を出す】</b>								
	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 現業精神保健福祉士6割の入会(1.5万人)(組織強化委員会)</li> <li>◎ 全国組織としての組織体制の在り方の検討(組織強化委員会)</li> <li>◎ 業務指針の活用促進(都道府県支部)</li> <li>◎ 倫理綱領改訂の検討(「精神保健福祉士の倫理綱領」改訂検討委員会)</li> <li>・社会的認知に向けた取り組み(メディアの活用など)</li> <li>・各都道府県における精神医療福祉関連の他団体と良好な関係構築を目指す</li> <li>・次世代に対するメンタルヘルス、社会福祉に関する啓発</li> <li>・精神保健福祉士養成校との連携、協働の推進</li> <li>・構成員のインセンティブに関する方策の検討</li> <li>・精神保健福祉士の業務調査</li> <li>・事務局機能の強化</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 代議員制度の構成員への浸透と代議員機能の有効化の促進(組織強化委員会)</li> <li>◎ メディア機能の理解を深め、有益な活用の推進(メディア連携委員会)</li> <li>◎ 都道府県支部・ブロック単位での災害支援体制、減災意識に対する普及啓発(災害支援・復興支援委員会)</li> <li>・支部、ブロック単位での精神保健医療福祉に対する福祉教育、啓発活動</li> <li>・支部、ブロック単位での認定SVR、認定成年後見人の活動の浸透</li> <li>・地域単位での当事者、家族、他団体等との交流、協働の推進</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 精神保健福祉士の資格取得者増加策の強化(理事会、事務局)</li> <li>◎ 構成員が情報や意見交換のできるプラットフォーム環境を検討(事務局)</li> <li>◎ 全国組織としての当事者、家族、他団体等との関係の発展、協働の推進(理事会)</li> <li>・地域共生社会の実現に向けた社会の変革実現のために都道府県協会との協働や求められる精神保健福祉士像の追求</li> <li>・精神保健福祉士の国家資格の在り方に関する検討</li> </ul>		